

ふりがな 氏 名	いけや まさなお 池谷 政直	職 名	助教
取 得 学 位	修士(医科学)	学会での受賞歴	
主な担当科目	基礎ゼミナール、臨床実習 I		
所 属 学 会	日本作業療法士協会(教育部員:令和3年4月～現在に至る、学術部員:令和4年4月～現在に至る)、愛知県作業療法士会、日本臨床作業療法学会、クリニカル・クラークシップに基づく作業療法臨床教育研究会		

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
1 教育方法の実践例(健康科学大学)		
視聴覚教材の活用	令和2年4月～令和4年3月まで	作業療法概論、作業療法評価学、精神作業療法評価学演習、精神障害作業療法治療学、精神障害作業療法治療学演習、作業療法特論において、精神科事例に関する映像・画像を用いて、疾患や患者像の理解促進に活用した。
ICT教育の実施	令和2年4月より令和4年3月まで	精神作業療法評価学演習、精神障害作業療法治療学、精神障害作業療法治療学演習、作業療法特論において、タブレットを使った講義、クラウドを通じた授業資料の共有、WEBサービスを用いた学習状況の把握などを実施し、効果的な教育の実践に活用した。
授業外における学生の能力を伸ばす取り組み	令和2年4月より令和4年3月まで	作業療法のエビデンスピックアップを記した英語研究論文の抄読会を開催し、学生の学修向上の取り組みを実践した。また精神科領域に興味関心のある学生に対して、臨床現場の見学・ボランティア参加機会を提供し、学修意欲の向上に対する支援を実践した。
基本的専門技能の定着を促進する取り組み	令和2年4月より令和4年3月まで	作業療法演習Ⅰ、作業療法演習Ⅱ、作業療法演習Ⅲにおいて、臨床実習前の基本的専門技能(評価測定手技・治療介入・コミュニケーションスキル等)の学修到達度を図る目的で客観的臨床能力試験(OSCE)を導入。精神障害領域 OSCEを担当し、試験の立案・実施を行った。
レポート添削指導	令和2年4月より令和4年3月まで	作業療法入門実習、精神作業療法評価学演習において、課題レポートの添削を行う中で、学生の理解が促進されるよう、不足する点には補足コメントや参考書該当ページを入れるなどし、工夫をした。
ルーブリック評価の活用	令和2年4月より令和4年3月まで	精神作業療法評価学演習、精神障害作業療法治療学、精神障害作業療法治療学演習において、達成目標を明確にし学生に提示するツールとしてルーブリック評価を用い、フィードバックに活用した。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
Microsoft Teams を使用したオンライン授業の実施	令和 2 年 4 月より令和 4 年 3 月まで	COVID-19 の感染拡大に伴い、Microsoft Teams を活用したオンライン授業を実施した。同時双方向型の授業を行った他、Microsoft Forms を活用した学生の理解度を確認するための確認テスト、画面共有機能を活用した発表ディスカッション、チャンネル機能を活用したグループワークの実施等、オンライン状況下における教育指導方法を工夫した。
反転授業の実施	令和 2 年 4 月より令和 4 年 3 月まで	精神障害作業療法治療学、精神障害作業療法治療学演習において反転授業を実施した。知識のアウトプットに焦点を当てた授業を行うことは、学生の学習意欲を高めることに繋がった。また学生個々の進捗や理解度に合わせて指導を行うことで、教育効果を高める工夫をした。
2 作成した教科書, 教材(健康科学大学) 事例基盤型学習に用いる教材	令和 2 年 4 月より令和 4 年 3 月まで	COVID-19 の感染拡大による学外実習の中止に伴い、作業療法の評価・治療プロセスの学習で使用使用するオリジナルの身体障害領域、精神障害領域、老年期領域の事例検討課題資料を作成し、教材として用いた。
客観的臨床能力試験(OSCE)に用いる教材	令和 2 年 4 月より令和 4 年 3 月まで	作業療法の評価測定手技と治療介入に関する OSCE マニュアルを作成した。また、本務校オリジナルの日常生活動作の介助場面を想定した学習用資料を作成し教材として用いた。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論 文	認知症高齢者の QOL 工場にむけた ADL 支援プロトコル構築のための在宅の基礎的調査	共	平成 29 年 7 月	日本認知症ケア学会誌 16(2)	中西康祐、大浦智子、 <u>池谷政直</u> p.461-469
	精神科長期入院患者と対象とした Illness Management and Recovery の実践報告	共	平成 31 年 月	日本臨床作業療法研究 6(1)	<u>池谷政直</u> 、山鹿隆義、岩田悠弥、中西康祐 p.1-6
	Successful occupational therapy at end of life for a patient with prostate sarcoma	共	令和 3 年 6 月	BMJ Case Reports 14(6)	Takayoshi Yamaga , Katsutoshi Asano, <u>Masanao Ikeya</u> , Kosuke Nakanishi
論 文	血管内皮機能に及ぼす低温温泉浴の効果	共	令和 3 年 6 月	健康科学大学紀要 第 17 号	海保享代、 <u>池谷政直</u> 、永井正則、志村まゆら

区分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発行・ 発表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	在宅で暮らす認知症の人の ADL の実態と主観的 QOL との関連の 調査	共	平成 29 年 5 月	第 18 回日本認知症学会 大会(沖縄コンベンショ ンセンター)	中西康祐、池谷政直 日本認知症ケア学会抄録集 P-006
	在宅で暮らす認知症高齢者の ADL の実態と主観的 QOL との関 連の調査	共	平成 29 年 7 月	第 51 回日本作業療法学 会(東京国際フォーラム)	中西康祐、池谷政直 日本作業療法学会抄録集 51 回 PJ-2E05
	長期入院の統合失調症患者に Illness Management and Recovery が有効であった一事例	共	平成 30 年 9 月	第 52 回日本作業療法学 会	池谷政直、山鹿隆義、岩田悠 弥、中西康祐 日本作業療法学会抄録集 52 回 PH-2C09
	認知症重症度と ADL の関連の予 備的調査	共	平成 30 年 9 月	第 37 回日本認知症学会 学術集会(ロイトン札幌)	中西康祐、山鹿隆義、池谷政直 Dementia Japan 32(3) p.513
	精神科作業療法臨床実習に向け た OSCE の試み	共	令和 1 年 9 月	第 53 回日本作業療法学 会(福岡国際会議場)	春山佳代、中村圭一、池谷政直 日本作業療法学会抄録集 53 回 PR-1D06
	主観的社会的スキルは OSCE・臨 床実習により変化するのか？	共	令和 1 年 9 月	第 53 回日本作業療法学 会(福岡国際会議場)	高橋享代、山鹿隆義、榎田哲 弥、池谷政直、中西康祐 日本作業療法学会抄録集 53 回 PR-2F05
	認知症の進行に伴う ADL 遂行状 況の変化についての予備的調査	共	令和 1 年 9 月	第 53 回日本作業療法学 会(福岡国際会議場)	中西康祐、山鹿隆義、池谷政直 日本作業療法学会抄録集 53 回 OJ-5-1
	Illness Management and Recovery を 実施した長期入院統合失調症患者 のケースシリーズ研究－社会生活 機能に着目して－	共	令和 1 年 9 月	第 53 回日本作業療法学 会(福岡国際会議場)	池谷政直、山鹿隆義、岩田悠 弥、中西康祐 日本作業療法学会抄録集 53 回 PH-1D03
	課題価値測定尺度を用いた作業 療法学生への OSCE に対する課題価 値の分析	共	令和 1 年 9 月	第 53 回日本作業療法学 会(福岡国際会議場)	池谷政直、山鹿隆義、海保享 代、中西康祐 日本作業療法学会抄録集 54 回 PR-32
	OSCE・臨床実習が及ぼす主観的 社会的スキルと自己効力感の変化 について	共	令和 2 年 9 月	第 54 回日本作業療法学 会(WEB 学会)	海保享代、池谷政直、山鹿隆 義、中西康祐 日本作業療法学会抄録集 54 回 PR-47